

3月の災害教訓カレンダー

日	災害	教訓
1	1939年 枚方陸軍禁野火薬庫爆発事故 砲弾解体作業中に砲弾が爆発、4時間の内に29回も大爆発を起こした。94名死亡、602名負傷。	
2	1657年 振袖火事 無縁遺体63,430余体、漂着した遺体4,654体とされており、別の記録では死亡者108,000人と記された。世界三大大火に数えられている。	
3	1933年 昭和三陸地震津波 岩手県沿岸部4~20m、宮城県沿岸部2~10mの大津波が押し寄せた。死者1522名、行方不明者1542名。	多くの人々は津波襲来の危険を感じ避難しており、明治三陸地震津波の教訓が生きたといえる。
4	1910年 ロジャース・パス(峠)雪崩(カナダ) カナダ太平洋鉄道の線路が雪崩で埋もれ、旅客列車が立ち往生。除雪作業中に再び雪崩が起き、労働者58名死亡。そのうち32名が日本人労働者と伝えられている。	
5	1966年 富士山麓墜落事故 イギリス BOAC 機が富士山に近づき、特有な乱気流に巻き込まれ空中分解。乗客、乗員124名全員死亡。	
6	1943年 北海道倶知安町映画館布袋座火災 映写室から出火。映写室が出口近くにあり避難できず、裏の非常口も屋根まであった雪でふさがっていた。いち早く2階の窓から逃げた人のみ助かった。死者208名。	
7	1788年 京都天明の大火 京都最大の火災。火の勢いは2日後ようやく衰えたが、京都の中心部をすべて焦土と化した。被害は1424町、家屋3万6797軒、寺院201か所、神社37か所。死者1800名。	
8	1766年 津軽半島地震 青森県西部でM7クラスの地震が起き、弘前から津軽平野南部、青森にかけて被害が大きかった。死者1277名。	
9		
10	1944年 昭和19年東北地方北部太平洋沿岸豪雪 岩手県を中心に被害が集中、積雪量は宮古で103cm、岩泉で165cmを記録、強風が吹き荒れ建物の倒壊や堤防の決壊も相次いだ。死亡、行方不明164名。	
11	2011年 東日本大震災 死者15,894名、そのうち災害関連死3,472名(福島県2,038名)。行方不明者2,561名。場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.1mにも上る巨大な津波が発生した。	
12	1925年 九州汽船宇和島丸沈没事故 時化のため機関部に故障を起こして漂流、長崎県の野母崎沖で沈没した。行方不明者113名。	
13	1668年 江戸寛文8年2月の連続火災 13日は3件の火災が発生、1日で武家屋敷2407軒、寺院136か所、町屋132町半、農家170軒を焼失した。その後16日にも3件と18日にも火災が発生した。	
14	1968年 東京南池袋ブロンズ会館火災 負傷者14名。同会館は過去3回も火災を出しているが、防火対策がなされていなかった。	消防法の一部を改正、共同防火管理制度を発足させた。
15	1914年 秋田仙北地震 特にひどかったのは現・大仙市内の神宮寺村宇留井谷地で住家の全壊率86%。死者94名。	
16		
17	1992年 道央自動車道玉突き衝突事故 札幌と千歳を結ぶ北海道縦貫自動車道で、車両186台が巻き込まれた。死者2名、負傷者108名。	救急ヘリコプターが、事故現場の高速道路上に着陸、被災者に救急処置をし、救急関係者は貴重な教訓を得ている。
18	1941年 北海道三菱美唄炭鉱ガス爆発事故 坑夫370名が入坑していたが、193名が猛火の中取り残された。死者8名、行方不明者177名。	
19		
20	1995年 地下鉄サリン事件 12名が死亡、5512名が重軽傷を負うという大惨事が起きた。現在でも、負傷者の多くが後遺症に悩んでいる。	
21	1912年 東京深川明治45年州崎の大火 遊女屋、引手茶屋など家屋全焼1149戸、同半焼11戸、焼損面積5万9318平方m。	
22	1873年 屋根屋火事 函館市街の東部地区が焼けた。5名死亡、焼失数は町数9町、棟数415棟、戸数(世帯)1314戸、神社2棟、寺2棟。	
23	1946年 巡航客船金華丸沈没事故 女川港から動き出した瞬間、定員超過などにより海水が侵入。満員で身動きが取れず、103名が死亡。	
24	1988年 中国の列車衝突で修学旅行生死傷事件 単線区間で列車同士が正面衝突し、修学旅行生29名が死亡、99名が負傷。	
25		
26	1872年 銀座の大火 午後3時頃、和田倉門内の兵部省添屋敷から出火。銀座、京橋を含め34町、家屋2,926戸を焼く。	
27		
28	1913年 国内初の飛行機墜落事故 飛行技術を磨き研究を重ねていたさなかの事故であった。陸軍の2名が殉職。	
29	2000年 有珠山噴火 29日から前兆活動として地震が頻発し、31日に噴火が始まった。29日に最初の避難指示が出され、道路や建物が相当の被害を受けながらも1人の犠牲者を出さなかった。	気象庁室蘭气象台、北海道大学が自治体や住民と協力して観測、研究を行っており、長年の蓄積から防災体制を整え、避難準備を進めていた。
30	1902年 橋北の大火 福井では、足羽川南岸で起きた「橋南の大火」に続き、同川北部の中心部が焼けた。被害は29町、民家3309戸が焼失。	
31	1972年 春三番船舶大量遭難 低気圧が日本海を通過し、それによる風速20~40m/秒の強い南からの季節風「春三番」が、航行中の船舶50隻を沈めた。死亡、行方不明者113名。	